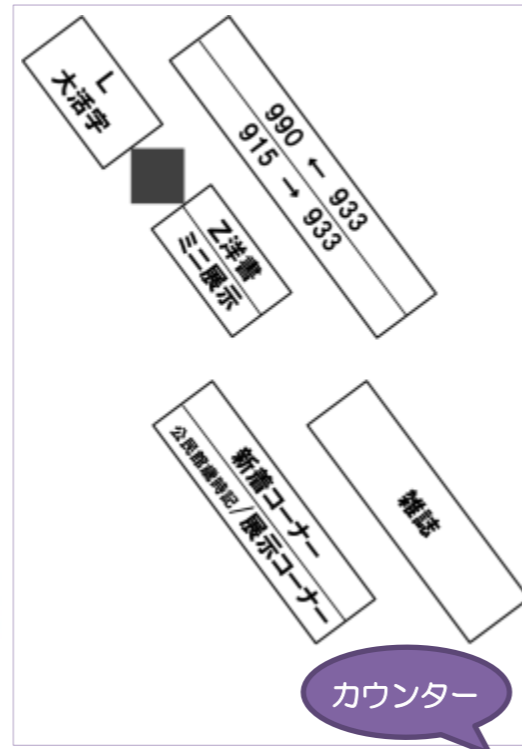


図書館からのお知らせ

- ①Z（洋書）の場所が変わりました。
児童書を含むすべての外国語で書かれた本が、ミニ展示で使用していた棚の右半面に移動しました。
- ②ミニ展示の棚は、今週のおすすめ本・スタッフおすすめ本・ミニ展示になりました。
- ③公民館歳時記は展示コーナーの左端になりました。
- ④新聞架・雑誌架・新刊架・ソファの位置が少し変わりました。

ご迷惑をおかけしますが、より良い書架作りを目指しております。ご意見等がありましたら、スタッフまでお申し出ください。



読むトコ



第5巻 第4号 (2017.3)

そ ぞく 素 読
ふ る た ず あ たら し
～ 故 き を 温 め 新 し き を 知 る ～

「素読」とは？

●意味の解釈を加えず、本の文字を声に出して読み上げること。



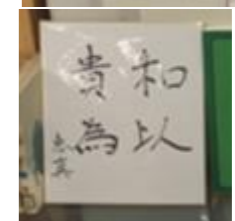
昨年12月10日（土）新所沢まちづくりセンターの学習室1号において、「素読」の講座を開催しました。

当日は、「素読の会 [所沢]」の代表として市内小学校などでも活動をされている那須恵真氏を講師としてお招きして、『論語』を題材として学び、また実際に参加者全員で素読をしました。他にも、『孫子の兵法』など多くの本をご紹介いただきました。

素読に興味を持たれた方も『論語』を読んでみたかった方も、ご満足していただけたようでした。

講座開催の前後には、館内中央のガラスケースで関連図書の展示を行いました。講座開催後には、那須氏からいただいた色紙も併せて展示しました。

今回の講座の参加者はみなさん大人の方でしたが、子ども向けの『論語』や素読の図書もあります。現在展示は終了しましたが、興味のある方はカウンターでお尋ねください。



講座のアンケートから（みなさんの感想を抜粋）

- ・素読を初めて体験しました。論語に触れるよい機会となりました。
- ・普段声に出して読むことが、なかなかない。小学生の頃は親に声を出して読みなさいと言われたことを思い出した。
- ・充実した1時間 話しに聞き入りました。
- ・先生のお話にはとても深いものがあり、自分の考えの至らなさを反省させられる点もありました。
- ・論語、素読についてわかりやすくご説明いただき心洗われる様な気持ちになりました。

ファミリーマート小手指店の 取り扱い終了につきまして

ご協力いただいていた店舗様のご都合で2016年11月24日をもちまして取次サービスを終了いたしました。現在、代理となる店舗を探しております。ご不便をおかけして大変申し訳ありませんが、何卒ご理解のほどよろしくお願いいたします。

ボランティアさんの腕章につきまして
新所沢分館の配架ボランティアの皆さまに腕章をつけていただくことになりました。

※配架とは、本を書棚に戻す作業のことです※



編集後記

2月の蔵書点検が終わり、棚の移動や館内の模様替えがありました。不明な点がありましたらスタッフまでお問い合わせください。

厳しい冬から、少しずつ暖かな春の気配が感じられる時節となりました。お出かけの際に便利なガイドブックや、これから盛りを迎える春の花や山菜について調べられる本を図書館では所蔵しております。春を感じてみたくなった時に、ご活用ください。

読むトコ 第5巻第4号

編集・発行：所沢市立所沢図書館新所沢分館

発行日：2017年3月15日

〒359-1111 所沢市緑町1-8-3 ☎04-2929-1905

開館時間

火曜から金曜 9時半～21時

土日祝日 9時半～17時

休館日 毎週月曜日・月の最終水曜日

指定管理者 株式会社ヴィアックス



レファレンス紹介



「レファレンス」とは

図書館では、皆さまからのご質問に、図書館の資料を使ってお答えしたり該当する資料を提供したりしています。

新所沢分館のレファレンスカウンターは、図書館入口から見て、一番奥のカウンターです。

専門的な調査・研究の一環からちょっと気になった身近な疑問まで、気軽にお問い合わせください。

実際に新所沢分館で申し込みのあったレファレンスの一例を簡略に紹介します。

質問内容：江戸時代、富士信仰に使われた人工の富士山について、その場所や地図が載っている資料を探している。

回答内容：富士信仰に使用した人工の富士山は「富士塚」という名称です。以下に場所や地図の記載があります。

『富士塚ゆる散歩』 有坂蓉子／著 講談社 2012年

『ご近所富士山の「謎」』 有坂蓉子／著 講談社 2008年

『日本常民文化研究調査報告第4集』 神奈川大学日本常民文化研究所／編 平凡社 1993年

『富士山文化』 竹谷鞆負／著 祥伝社 2013年

『日本人はなぜ富士山を求めるのか』 島田裕巳／著 徳間書店 2013年

また、以下のホームページ等に場所や地図の記載があります。

「文化遺産オンライン」

「国指定文化財等データベース」

過去のレファレンス事例の一部は、図書館のホームページからもご覧になれます。

ホームページには全館で受け付けたレファレンスが載っているので、いろんなレファレンスを見てみると面白いと思います。 ホームページアドレス <https://lib.city.tokorozawa.saitama.jp>

レファレンス **Reference**



エンジン **Engine**

事典・年鑑・白書など調べ物用の資料、いわゆる「参考資料」は、レファレンスを進めていくなかで欠かせないエンジンです。多くは貸出禁止ですが、価値ある一冊も多いので、ぜひ一度手にとってみてください。

『全国文学館ガイド』

全国文学館協議会／編 小学館 2005年 R/910.6/ゼ

この本は全国の文学館についてまとめたガイドブックです。各文学館の所在地や、ゆかりの文学館を文学者の名前から調べることが出来ます。代表的な文学館にまつわるエッセイも掲載されており、読み物としても楽しめる一冊です。高橋源一郎さんや井上ひさしさんなど、多くの作家や文学に携わる方がエッセイを寄稿しています。図書館で気になる作家を見つけた時に、ぜひ、このガイドブックを思い出してみてください。

※2005年度版は貸出できるものもございます。2013年度版は本館に所蔵されています。

ボランティアさんインタビュー



配(排)架ボランティアとは？

所沢市立図書館では、図書の整理や修理、おはなし会での読み聞かせなど様々なボランティアさんが活動しています。

新所沢分館には、現在10名ほどの配架ボランティアさんがいらっしゃいます。

配(排)架とは個々の図書館資料を、請求記号等の所定の排列順序に基づいて、書架上に並べること。(図書館情報学用語辞典より)

今回は、^{いんぎひてき}板木栄樹さんにお話を伺いました。



ボランティアを始めた経緯について

それまでボランティアを行ったことはなかったのですが、子供が大きくなって時間ができたので少し探してみたら、図書館の募集を見つけて応募しました。個人的にも読書会に参加するなどして、ちょうど本に対してより興味を持ち始めた時期だったので、良いタイミングでした。

ボランティアを行ってみて

仕事でもなく遊びでもなく作業をするという経験が新鮮でした。配架の仕事は少し体を使うこともあり、意外とリフレッシュされます。また、配架をしていると図書分類が自然と頭に入ってきます。哲学、歴史から社会科学、自然科学、そして文学に至る分類は一つの知識体系でもあるのだなと思いました。これは本屋などでは気づかなかったことでした。小説でもよく借りられている本で作家の根強い人気が伺えたり、いろいろな発見があります。ひとつ困ったことは、読みたい本がどんどん増えて、ますます読書が追いつかなくなることですね。

板木さんは新所沢分館にとって第一号のボランティアさんです。2012年から2013年にかけて、ご家族3人で活動していただきました。一時お仕事の都合で中断していましたが、昨年復帰されました。これからもどうぞよろしくお願いいたします！！

図書館スタッフおすすめの本

『任侠書房』 今野敏/著 中央公論新社 B913.6/コ/

昔ながらのヤクザ、阿岐本組の組長の気まぐれから始まった倒産間近の出版社の立て直し。

慣れないながらも組長への恩義のために奔走する主人公日村の苦悩と努力に、読み進めていくうちにどんどん引き込まれていきます。

裏社会に生きる人物達が一般の人達のために動く変わったストーリーで、裏社会でのスリルあふれる展開があれば、人情味あふれる展開があり、後に続くシリーズも読みたくなります。(S・Y)



今回のおすすめ本が気になった方は、こちらもいかがでしょうか？

『任侠学園』 今野敏/著 中央公論新社 2012年 B913.6/コ/ (シリーズ続編)

『陽炎』 今野敏/著 角川春樹事務所 2000年 913.6/コ/

(ドラマ化もされたシリーズの1作目)